

記入例②：SDGs に基づく商品パッケージ開発プロジェクト

【発表タイトル】

サステナブルな未来へ！学生発・環境配慮型パッケージデザイン開発

【授業等の名称】

デザインプロジェクト演習

【授業等の概要（授業の位置づけに関して）】

2～3 年次を対象とした実習型ゼミで、デザインと経営の視点を融合しながら、企業と連携した課題解決型プロジェクトに取り組む。特に SDGs や ESG などの持続可能性の視点を意識し、商品やサービスの価値を再構成することを学ぶ。学生は調査・企画・提案を通じて、創造性だけでなく、論理的思考力や協働力を育成することを目的としている。

【授業等の位置づけ】

ゼミ

【授業等のタイプ】

必修

【活動の概要（学生の活動内容に関して）】

企業が取り組む環境課題への貢献を目的に、既存商品のパッケージを環境配慮型に見直すプロジェクトを実施。現行商品の課題分析、類似製品の調査、素材や構造の比較検討を経て、SDGs の視点から実現可能なデザイン案を複数検討。中間報告とフィードバックを重ねながら、企業担当者への最終提案に向けてプレゼン資料と試作品を作成・発表した。

【活動期間（授業のスケジュール）】

2024 年 4 月～2024 年 9 月

【学生の活動参加人数】

6

【①社会人基礎力の発揮】

初めて企業と対等に関わる場において、学生は積極的に質問・提案を行い、相手の要望やフィードバックを丁寧に受け止めた。その上で、自分たちの提案の妥当性や改善点を見つめ直し、「状況把握力」や「発信力」を意識して、相手の立場を踏まえた説明の工夫や提案書の再構成を行うなど、柔軟性と責任感を伴った実践的な力を発揮することができた。

【②前に踏み出す力の成長】

当初はテーマの抽象度が高く、どこから着手すべきか戸惑う様子も見られたが、課題の本質を探る中で自発的に情報収集を行うようになった。「主体性」を持って仮説を立てながら、「働きかけ力」を活かして企業担当者に直接提案を行うなど、受け身の姿勢から自ら行動を起こす姿勢へと変化し、積極的に新しい挑戦に踏み出す力が養われた。

【③考え抜く力の成長】

企業側のニーズと SDGs の理念の両立は決して容易ではなかったが、既存の市場事例や素材別の環境影響を分析しながら、制約条件下での最適解を模索。「課題発見力」と「計画力」を活かし、調査・検討・改善を繰り返す中で、論理と創造の両面から納得できる提案に仕上げていった。思考の粘り強さと探究心が特に大きく伸びた。

【④チームで働く力の成長】

チーム内での役割分担に加えて、定期的な進捗確認と意見交換を実施し、作業の効率化と意思疎通を図った。「柔軟性」を持って他者の意見に耳を傾け、「チームで目標を達成する力」として重要な「傾聴力」を活かしながら対話的に課題を解決。全員の納得を得たうえで提案内容を構築し、協働的な姿勢とコミュニケーション力を高めた。

【⑤このプロジェクトで学んだこと】

学内だけでは得られない実践的な課題と向き合い、理想と現実の間で何を優先し、どう折り合いをつけるかを考える力が身についた。また、自分たちの提案が実際の製品改良につながる可能性を体感したことで、責任感と達成感を得ることができた。今後の進路においても、企業との協働や社会課題の解決に積極的に関わりたいと考えるようになった。

【プレゼン時間があったらもっと説明したいこと】

ここまでの項目で書き切れなかった取り組みや成果など自由に記載してください